

## エルジェーベト橋

Bridges of the World

ハンガリー・ブダペスト



ハンガリー・1964年発行

ブダペストのドナウ川には、近代橋としてセーチェニ鎖橋(1849年)とマルギット橋(1876年)が架けられていましたが、19世紀の末期には更に橋の需要が高まり、2つの橋が架けられることになりました。

先に建設に着手されたのは、税関前広場に通じるフェレンツ・ヨーゼフ橋(現在の自由橋)で、1896年に完成しました。橋の形式は鋼製のカンチレバートラスで、全長は334m、中央径間は175m、幅員は約21mの規模を持ち、デザインはハンガリー趣味のアールヌーヴォー様式で、塔の上にはマジャール建国の伝説上の鳥の像やハンガリー王国の紋章が飾られました。

一方、エシュキュ広場(現3月15日広場)に通じる橋の建設は、市役所の移転問題などで先延ばしにされていましたが、ようやく1898年に始められました。この位置はドナウ川の川幅が最も狭いところで、川の中に橋脚を建てない3径間の吊橋が選ばれ、全長379m、中央径間長290m、幅員18mの規模を持つ、当時世界最大スパンの吊橋が1903年に誕生しました。アールデコ様式のデザインをもつ美しい吊橋は、ハンガリー人に人気の高かった

王妃の名前をとってエルジェーベト橋と名付けられました。当時はオーストリア・ハンガリー二重帝国の時代で、新しい橋に国王と王妃の名前が付けられたのです。

ブダペストの名所の1つであったこの橋もまた1945年に撤退するドイツ軍によって爆破され、その姿を消してしまいました。

戦後になってドナウ川の橋は順次復旧されることになりましたが、エルジェーベト橋は1960年まで放置されていました。復元を望む声も高かったのですが、ブダペストの道路事情から大幅に拡幅する必要もあり、上部工は完全に架け換えられることになって1964年に完成しました。形式は同じ吊橋が選ばれましたが、チェーンに代わってワイヤーケーブルが用いられ、桁も鋼板桁に変えられています。旧橋とは違って近代的でシンプルなデザインですが、主塔や橋門には陰影効果が出るように景観上の配慮が見られます。

旧橋と同じ位置に建設されましたので、橋長、中央スパン長は旧橋と同じですが、幅員は3車線と両側歩道を持つ27mに広げられました。



撮影：松村 博